

平成29年度 地域福祉座談会（地域福祉活動計画について） 意見集約表 要約

資料 3

※1 平成28年度座談会（平成29年2月28日～3月17日の間に4日間、各地域社協連絡会ごとに開催 178自治会231人参加）

※2 平成29年度座談会（平成29年7月24日開催 86人参加）

2017.10.31

目標（6年後の姿）	取り組み	地域福祉活動計画の達成状況等	平成30～32年度で取り組んでいきたいこと
1 支え合い・助け合い	相互理解・人材育成	<ul style="list-style-type: none"> ・近所付き合いはどちらかといえば後退している ・ボランティア、参加者が固定化している ・アパート・マンション等集合住宅 ⇒ 近隣同士のつきあいが少ない ・日ごろの声掛け・あいさつが重要 ・ゴミだし支援実施自治会が増えている地区もある ・若い人の人材不足 ⇒ 様々な機会を通じて周知が必要 ・世代間の価値観の違いが問題 ・住民の高齢化 ⇒ 担い手の高齢化 ・地域のリーダーを育成することが必要だが難しい 	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ運動の継続・充実 ・高齢者の見守り体制づくりと活動 ・支え合いのしくみづくり推進員との連携 ・緊急医療情報キット活用の継続と充実 ・次世代（スタッフ等）の掘り起し ・高齢者宅のごみ出し、除雪等の生活支援活動 ・普段からの関係づくり ・声掛け、あいさつ運動の充実 ・PTAとの連携による地域活動の担い手育成 ・婦人部の充実 ・消防団や祭り参加者等若い世代との連携 ・男性に役割を持ってもらえるような工夫 ・ロコミパワーの強化
2 交流の場づくり	多世代交流	<ul style="list-style-type: none"> ・アパート、マンション住民の参加が少ない ⇒ 一方で地域によっては若い人が参加してくれている地域もある ・参加してほしい人ほど来てもらえないのが問題 ・地域の茶の間の代表や、運営ボランティアの高齢化 ・学校と地域の連携として町内清掃活動を行ったり、支援者として子どもが参加している地区がある ・学校と地域が連携し朝市を開催している地区がある ・子どもが生まれたらお祝いを渡している自治会もある 	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症カフェなど今までにない事業の実施 ・世代交流事業を増やし充実させる ・高齢者から子どもまで含めた交流 ・地域包括ケアモデルハウスの活用 ・友愛訪問事業の継続・充実 ・朝市の活用 ・マンション、アパート住民との交流 ・美化運動の推進
3 活動場所	居場所（ふれあいの場）・情報提供	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の茶の間が広がっている地域も一部あるが、まだまだ少ない地域が多い ⇒ 開催場所の確保が難しい、運営スタッフ不足の問題 ・新規開設だけでなく既存の地域の茶の間の活性化も必要 ・こども食堂の立ち上げを検討している地域がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の茶の間の新規開設（場所の確保、人材育成） ・既存の地域の茶の間の充実 ・子ども食堂の立ち上げ ・認知症カフェの開催 ・公共施設や学校跡地の活用
4 健康	健康維持・介護予防	<ul style="list-style-type: none"> ・ラジオ体操等を活用している地域がある ・健康寿命を長くする活動をしている地域がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康促進のためのイベントを開催 ・健診率を上げる取組 ・健康寿命延伸について住民が学ぶ機会をつくる
5 安心・安全	安心・安全	<ul style="list-style-type: none"> ・セーフティスタッフは増えている地域がある ・子どもから高齢者まで防災意識を高めている地区がある ・自治会長や民生委員に任せきりで、隣近所で助け合う意識が低い ・マンション住民の防災訓練の参加が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急医療情報キット活用の継続と充実 ・自治会の範囲を超えた全体的な訓練 ・一時避難マップの作成 ・防災マニュアルの作成 ・防災用リュックの配布
6 その他		<ul style="list-style-type: none"> ・転入者が増えてきても、自治会活動への参加が難しい 	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会と民生委員の情報共有と関係づくり ・新たな活動に取り組むより地域福祉活動計画に記載されている事業の充実に取り組む ・ごみ屋敷の問題